



あの記事は今 No.2

高崎まちなかオープンカフェ(高カフェ)

高崎市 商工観光部 産業政策課

平成25年4月に道路占用許可の特例制度を活用してスタートした高崎まちなかオープンカフェ、通称「高カフェ」も今年で4年目を迎えました。

これまで、～高崎のまちがカフェになる～をスローガンに、参加店の創意工夫や中心市街地を訪れる多くの利用者に支えられ事業を実施してきましたが、テーブルやパラソルの設置により、オープンなスペースでゆとりの時間を過ごす利用者の姿がまちなかの風景として定着してきています。

利用者は、サラリーマンやOL、小さな子どもを連れただご家族やペットと一緒に訪れる方など、幅広い層となっております。13店舗で開始した参加店も今年の6月には17店舗に拡大し、今後も更なる参加店の増加が見込まれています。

高カフェを実施していく中では、真夏の暑い時期にいかにお客を呼び込むかという課題にも直面しています。猛暑が続くここ数年の夏の時期には、残念ながらオープンスペースで飲食をする人は減少してしまいます。また、出店者による会議の場では、「利用客はリピーターが多く、新たなお客の開拓が必要」などの意見もあり、知恵を絞って課題の解決に取り組んでいます。

まず、夏の暑い時期には、「高崎おとまちプロジェクト」の協力をいただき、夕暮れから夜にかけてオープンスペースで音楽を奏でたり、マジシャンが目の前でマジックを見せるマジックショーを実施したりと、夏場の利用者の増加を図っています。

また、新たなお客を増やす試みとしては、高カフェをもっとたくさんの人に知ってもらうことが大事との考えから、高崎出身の落語家を招いて落語会を実施するなど、認知度を向上させるための事業も実施しています。

本市の中心市街地はこの数年で大きく変貌します。高崎アリーナや文化芸術センター、群馬県のコンベンション施設など、広域から多くの人を呼び込む施設の完成が控えているほか、高崎駅西口と直結する(仮称)高崎オーパも来秋オープンする予定です。

これら施設を訪れた多くの人たちがオープンカフェを利用し、寛ぎの時間を過ごしていただく空間をつくるため、出店者や高崎商工会議所、警察など関係機関と協力し、魅力的なまちづくりを推進して行きます。



オープンカフェの利用風景



オープンカフェのイベント風景①



オープンカフェのイベント風景②

